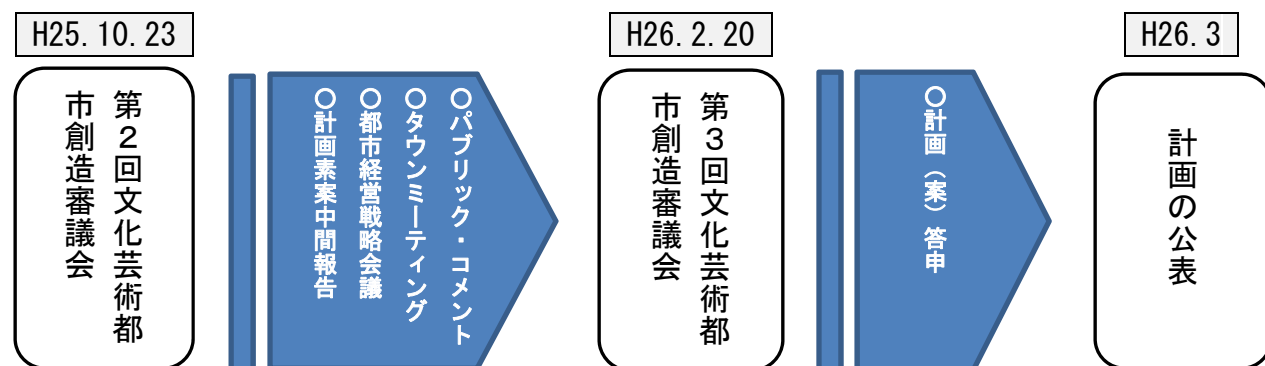


「さいたま市文化芸術都市創造計画（案）」について（説明資料）

資料 1

1 これまでの経過と今後のスケジュール



2 第2回審議会以降の主な意見

（1）タウンミーティング

- 期 間 10月20日～12月14日（10区で開催）
- テ ー マ ①文化芸術都市創造のための具体的な取組について
②シンボル事業としての（仮称）さいたまトリエンナーレについて
- 参加人数 238人（傍聴者20人含む）

主な意見等

<芸術家への支援に関するもの>

- 市在住の芸術家の多くは活動の場が東京中心となっている。こうした人材を市が育成していくべき。
- 若いアーティストが活動できる場を提供すべきではないか。

<情報発信に関するもの>

- 団体の会員募集や市民団体が開催するイベントの周知についても支援してもらいたい。
- 文化芸術に関連する情報を収集し、発信すべきではないか。

<子どもに関するもの>

- 幼いころから質の高い文化芸術に触れることが重要ではないか。
- 多くの子どもたちが一緒に文化芸術を楽しむ場があると、子どもたちの心の成長につながるのではないか。

<伝統的・民俗的な文化芸術に関するもの>

- 伝統文化の多くは後継者不足が課題であり、支援が必要。

<自主的な文化芸術活動に関するもの>

- 発表の機会が不足している。
- 練習や活動の場が不足している。文化施設の更なる充実や県有施設との連携が必要。

<文化芸術に触れる機会の充実に関するもの>

- まちづくりにもアートを取り入れ、多くの人に触れる機会を増やすことが大切ではないか。
- 鉄道に関連する人材を活かしていくべきではないか。
- 見沼田圃の緑や自然資源を活用していくべきではないか。

（2）パブリック・コメント（1月6日～2月5日）

- 意見提出者 16人 意見項目数 67件

主な意見等

<芸術家への支援に関するもの>

- 芸術家の発表の場と練習場所の確保が必要ではないか。
- 地域ゆかりの芸術家を積極的に活用すべきではないか。

<新たな発想や交流を生み出す取組に関するもの>

- 音楽と他分野（美術、文学、自然科学等）のコラボレーションした事業を実施してはどうか。
- 大宮駅にピアノを置き、誰もが気軽に演奏できるようにしたらどうか。

<計画の推進に関するもの>

- 補助金等、文化芸術活動の支援に関し、適正となるような仕組みが必要。

<その他>

- さいたまトリエンナーレに関する意見あり。（13件）

（3）文化芸術に関する意見交換会（1月21日）

主な意見等

<人材育成に関するもの>

- ターゲットを絞った人材の育成が必要ではないか。

<地域資源の活用に関するもの>

- 人形文化に対する関心が薄れてきているため、子どものころから人形文化に触れ合う機会の充実が必要。
- 漫画は、子どもが好きな分野であり、行政がやらなくても子どもは参入してくるもの。

<計画の推進に関するもの>

- 幅広い分野との連携や地域経済の活性化、産業の振興への配慮などの視点を踏まえた施策展開が重要。
- 文化振興事業団が持つノウハウを文化芸術振興施策に活かしていくべき。

3 計画の主な修正点について（参考資料1参照）

（1）パブリック・コメントなどを踏まえた修正

- 意見を踏まえ、字句修正や注釈の追加等を行った。（10件）

（2）庁内検討を踏まえた修正

①文化芸術資源を活かした事業の推進（P29）

地域に根ざした資源の活用を各区が行うという表現であったが、こうした地域資源の活用は、区だけの取組ではないため、表現を修正するとともに取組例を追加した。

②文化財等の保存・継承（P29）

本計画の上位計画となる総合振興計画において、分野別計画「文化芸術都市創造に向けた取組」の項に「市史編さん事業」が位置づけられたことから、当該計画との整合を図るため、本項目に市史編さんに関する取組を追加した。

③その他、文言修正等（8件）

文章全体を再度確認し、必要に応じて字句修正を行った。